

『助け合い共存の「平等原理」』

頭の中真っ白にして話聴いて下さい。

思えば人は便利さを追求して来たのに貨幣を通さなければ物が手に入らないなんて、良く考えれば不便な事です。又、世の中助け合いと言いながらも現実には競争原理の弱肉強食です。矛盾していますが貨幣の仕組みの中では、お金を得て「裕福に暮らしたい」「色々な物を手に入れたい」そう思うのが当然です。そして仕事によって利益が違いますからそこで格差が生じるのです。もはや貨幣のトリックにはまり数字が動いているだけに過ぎません。歴史の流れから考えると資源はあと残りわずか。ですが有るのですから平等に分け与えられて当然なはず。それが本当の助け合い共存です。しかし貨幣で成り立っている世の中は、お互いの利害関係に囚われてしまい、そうはいきません。古代の人々は何かを貰ったらその御礼に光る石や貝等を渡し、それが物々交換と言われ貨幣になってはいますが、それは間違った流れなのです。一連の流れの根源には良心善意が沢山有り、助け合い共存に徹する言わば「平等原理」なのです。それ故全ての関係が何かをしてあげられ何かをして貰える仲に成れるのです。それなのに現在に至る貨幣の流れは損得感情（勘定？）を生む最悪のものと化しています。世界で貧富の差が拡大しているのは貨幣が存在するからであり、これが撤廃されればそれは無くなり、基本的な衣食住が守られるはず。そう成れば紛争等起こさなくてすみ核兵器も廃絶出来ます。何故なら金欲・財欲・独占欲・支配欲と繋がっているからです。そんな中ある種の部族は、太古の昔から貨幣を使わず今でも立派に暮らしています。私達もそう自然に出来るはず！事実を直視してみてください。貨幣さえ無くなれば地球の愛する全てが、宗教に光を見出すしかない厳しい現状からや、物質的な幸福だけの心の寂しさからも抜け出せるのです。そして平等の幸福を「共感」でできるのです。

我々の世界と天界との決定的な違いは、“経済”“経国（安泰が保てるように国を治めること）済民”（つまり、国を治め人民の生活苦を救う意）です。世の中の全てを決定し動かすのはお金では無いのです。“愛有る魂”なのです。

何れにしる我々を見守る神はひとつです。『敬神の念』が有る無しにかかわらず！！

特徴「貨幣撤廃で・・・」例

以前の様に収入や 費等気にする必要も無く災害時の様にお互いに助け合う事が出来る為、基本の衣食住が守られ労働人員制限も緩和され利益等関係無く働き世の中に貢献し生活できる。

格差社会に歯止めが掛り過酷な労働が無くなり過労死を防げ心にゆとりが持てる為、人や家族とのコミュニケーションが快く取れ人間関係が上手くいき、トラブルや離婚も減

少。よって子孫を作る段階でも休養等が取りやすく、遺伝子に傷を付けずに子孫を残す事が出来る為、リスクが減少。又、子孫も安心して肉体に魂を宿す事が出来、生まれる時から本当の健康を手に入れられる可能性が高い。

学費が高く医者に成ろうにも成れなかった人が成れ、増加し発展する。又、患者も保険適用外だった治療や外国での難病の手術等も早く受けられる為、病に苦しむ人々が救われる。

